観葉植物「フィールド・グリーン」は当署の除伐材で出来ている

湯沢営林署　○今村　正伸
竹内　　満

1 はじめに

当署は秋田県の最南端に位置し、宮城・山形両県に接しており県内最大の河川、雄物川の最上流地域を占めております。

気候は夏期は雨量が多く、冬期は寒冷多雪であり、県内でも有数の豪雪地帯です。この多量な湿った雪が林木の生育に与える影響が大きいものがありますが、その反面、スギ造林地内の広葉樹小径木は、造林そして製品生産事業実行に当たって、作業功程・安全上多大な影響を与えております。

そこで県内屈指の豪雪地帯であり、それ故成長量の早い侵入広葉樹小径木を、平成4年度から職員の創意工夫により、人工観葉植物である「フィールド・グリーン」の基幹となる、その支柱を採取して、特定事業における増収対策に積極的に取り組んでいるので、その実行結果と成果について報告します。

2 背　景

当署管内である雄勝町に、工場を持つ造花メーカー「株式会社ボナフラワー」があります。以前は地元民間からの購入によって原材料を確保していたようですが、夏場の材は乾燥すると皮が剥がれると言う欠点があり不良品が続発し、また冬場の採取する人も数量も不足がちとなり、6年程前に大型観葉植物の需要が全国的に増えつつあったことから、会社側から当営林署に「造花の支柱にする材」の相談を持ちかけられました。

当署としても冬場の作業が徐伐2類及び保育間伐に限られ、その

他の現場作業を種々検討し模索していた時であったことから、冬山作業者の有効活用の場、及び不要な林地内広葉樹の副産物としての需要拡大そして、何よりも新規収入掘り起こしのため積極的に取り組むことで平成４年度から実行してきたものであります。

３　「支柱」となる材料について

材料となるものは、ブナ・ホオノキ・コシアブラ・カエデなど人工観葉植物本体の「製品支柱」となるもので、スギ造林地内或いは、その周辺に自然に生えている広葉樹幼齢木であります。

ただし、ナラ・トチ・サワクルミ等皮の剥げやすいもの、木の肌のツルツル・ザラザラしたもの等見栄えの悪いものは適しておりません。

製品生産事業実行箇所及び保育間伐・除伐２類を実行する造林地やその周辺で、スギ人工林の育成を妨げとなる幼齢木を、それぞれ長級１．２ｍ～２．０ｍ、径級１．５ｃｍ～６．０ｃｍ以上のものを特大・大・中・小それぞれ５～２０本単位に材に傷が付かないようビニール紐等で束ね、直接、または、ビニールシートを材の元口に巻き付け、製品に傷が付かないように道路端まで運搬するものであります。

また、採取するに当たって冬期が一番適期かについては、材の水分が低く加工しやすく、かつ製品にしても材の成長停止期であることから、製品完成後、後々まで皮が剥がれず本物の植木鉢と見間違えるほど変わらないのがその理由です。

なお、曲がりについてはそれなりに使用できますので、極端な曲がり以外は、２本並べにして完成させるそうです。

逆に適度の曲がった面白みのある木も沢山必要であり、これからは需要が益々増えるだろうと話しています。

4．長級・径級等について

表－1

区　分	小	中	大	特大	備　考
長級（m）	1.2 ～ 2.0	2.0	2.0	2.0	
径級（cm）	1.5 ～ 2.0	2～4	4～6	6.0以上	
1本当り単価	70円	110円	160円	200円	平成6年度以降
	50円	100円	150円	180円	平成4年度 ～ 5年度

これは、長級・径級別の規格表であり、小・中・大・特大の規格により1本当たりの単価が決められています。

主に当署で生産採取しているものは、大・中が大部分を占めておりまして平均1本当たり単価が120円位になります。

5　採取後の用途

径級1.5～6.0cm、長級1.2～2.0mの徐伐材を幹に仕立て、ポリエステル製の葉や枝をつけた人工の観葉植物として、ベンジャミン・幸福の木・ゴムの木・パキラ・ゴールドカボック・マンゴツリー等種類は豊富であります。

幹はこのとおり当署で販売した天然の木であり、一見すると本物のようであります。当署の署長室等に3鉢ありますがオフィスやデパート或いは、各家庭に室内を飾る植物の鮮やかな緑が潤いと安らぎを与えてくれます。

ちなみに、毎月平均1,000鉢が1万円から3万円の価格で関東・関西方面そして通信販売用として全国へ出荷販売されていると聞いております。

6　過去6か年の生産販売実績（特定事業）と収入の状況について

表－2説明

年度	数量(本)	販売額（円）	延人員(人)	1人1日当たり収入額
4年度	15,590	1,189,340	279	4,262円
5〃	15,170	1,486,670	377	3,943〃
6〃	15,460	1,577,190	385	4,097〃
7〃	6,850	774,050	186	4,162〃
8〃	19,360	2,382,080	277	8,596〃
9〃	15,480	2,026,290	264	7,675〃

今までの販売実績を表にしたもので、特に平成8年度～平成9年度にかけては採取・本数・販売額共に今までになく好結果となりました。

採取は、生産事業では変動要員、また主作業の出来ない日に実行します。また造林事業では保育間伐・除伐2類実行中に適木を採取し、一定個所に集積し、当日の作業が終り休憩所に帰るときに道路端まで運んできます。

積雪の関係で12月に功程は上がりますが、以降徐々に低下し冬期間通じての平均は約60本くらいであります。

また当然のことながら、支柱の生産個所が奥地化し搬出距離が林道端まで遠くなりますと功程はダウンとなります。

7　おわりに

当営林署としても、こうした単一物品だけでこれだけの収入を上げるのは、本当に全国でも珍しいことだと考えています。

本来であれば、これらの侵入広葉樹は現地に放置してくるものであり、ちょっとした相談に乗ったことが営林署にとっては、平成8年度以降については、冬期間に、２００～２４０万円もの利益となりました。

また、支柱の材料調達作業が進めば進むほど、当署における山の手入れも進むこととなり、まさに営林署側と業者側との利害が一致しているところでありますし、もっともっと増量して欲しいとの要望がありますが、その分は他署にお願いしているところです。

現在も積雪量が１ｍ以上ある各現場において実行しておりますが、今後とも湯沢特有の資源状況を生かし、継続性のある一署一品に徹し続けたいと思っております。

また、更に話を進めた結果、この観葉植物に自然美を追求し、付加価値を高めるためには、観葉植物の根本の鉢の中に水苔を入れるとなお一層自然さを増し、かつ高価に販売出来、その需要もかなり期待できるとのことから、これらにも取り組みながら効率・効果的な増収対策に向けて参りたいと思います。

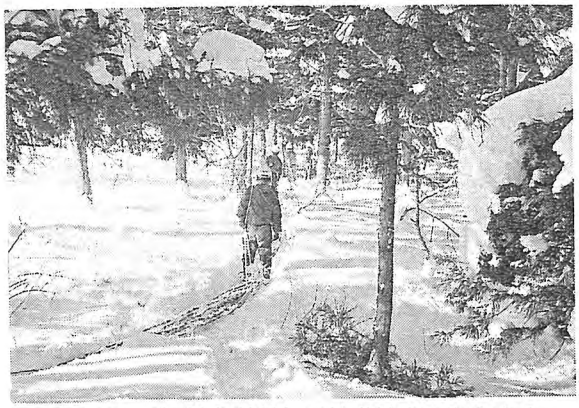
平成10年度冬山造林事業保育間伐個所

製品支柱となる広葉樹小径木を選定し伐倒する

伐倒したものを製品化のため長級別に裁断する

1本の広葉樹小径木から採取された10本の製品支柱
（小2・中4・大4）

林道端で長級・径級別に選別し運搬を待つ



紐で束ねて傾斜を利用して林道端まで搬出する

工場で支柱に人工の葉をつけて「フィールドグリーン」の製品となる